

JABEE 建築学および建築学関連分野 2010 年度認定審査実施要領

JABEE が公表する下記の文書に準拠して認定審査を実施する。

- ・ 日本技術者教育認定基準（2004-2010 年度版）
- ・ 「認定基準」の解説（2010 年度版）
- ・ 認定・審査の手順と方法（2010 年度版）
- ・ 審査の手引き（2010 年度版）
- ・ 自己点検書（本文編）（2010 年度版）
- ・ 自己点検書（引用・裏付資料編）（2010 年度版）
- ・ 自己点検書作成の手引き（2010 年度版）
- ・ 認定審査の申請に必要な条件

本実施要領では建築学および建築学関連分野にかかわる事項を示す。

1. 適用する文書

2010 年度審査においては以下の文書を適用する。

- (1) 「分野別要件－建築学および建築学関連分野－」（2004-2010 年度版）
- (2) 本実施要領および参考資料「建築学および建築学関連分野におけるキーワード」（ただし、経過措置として 2011 年度まで、2008 年度認定審査実施要領および 2002 年度版「建築学および建築学関連分野要件の知識・能力等の内容」を適用してもよい）

2. 専門科目に関する要件

プログラムは JABEE 認定基準に示される授業時間のほか、以下に示す、専門科目に関する内容と授業時間を満足しなければならない。専門科目は、包括基礎と特定領域とに分けられる。

2.1 包括基礎に関する最低要件

「分野別要件－建築学および建築学関連分野－」に示されている「1. (1) 建築学分野の包括的な専門的知識・能力」を保証するために、下表に示す 6 つの領域を包括基礎と位置づける。JABEE 基準が要求する 900 時間以上の授業時間のうち、包括基礎に対する授業時間として、各領域に対し以下の最低要件を定める。各領域に含まれる科目の設定は、プログラムの教育目標に立脚した、教育機関の判断に委ねられる。

包括基礎	授業時間の最低要件	(参考) 授業コマ数*1
建築設計演習*5	90 時間	4 コマ相当
建築計画*2	67.5 時間	3 コマ相当
建築環境・設備	67.5 時間	3 コマ相当
建築構造	67.5 時間	3 コマ相当
建築生産*3	67.5 時間	3 コマ相当
分野横断領域等*4,*5	90 時間	4 コマ相当
計	450 時間	20 コマ相当

- *1 1 コマは 90 分、半期 15 週（試験を含む）とし、時間数として、1 コマは半期で 22.5 時間、通年で 45 時間を想定している。
- *2 「建築計画」に都市計画を加えてもよい。
- *3 「建築生産」には材料・施工等の科目を含む。
- *4 「分野横断領域等」とは、内容的に「建築計画」「建築環境・設備」「建築構造」「建築生産」の 2 以上に関わる科目およびその他の諸科目を指す。
- *5 「建築設計演習」および「分野横断領域等」にある科目には、内容がその他の 4 つの領域と大きく重なる場合がある。その場合、科目によっては、その内容から説明が可能であれば、重なりのある領域のどちらの領域としてもよい。また、時間数を分割してそれぞれの領域の時間数に算入してもよい。

2.2 特定領域に対する要件

「分野別要件－建築学および建築学関連分野－」に示されている「1. (2) 建築にかかわる特定領域の高度な専門的知識・能力」を保証するために、教育機関は特定領域を少なくとも一つは設定しなければならない。ただし、「1. (1) 建築学分野の包括的な専門的知識・能力」をさらに発展させた知識を持ちそれを実務に適用しうる能力を保証する「包括総合」という特定領域としてもよい。特定領域に対する授業時間として、包括基礎に対する授業時間とあわせて900時間以上を確保しなければならない。どのような特定領域を設定したかは明示されねばならない。

3. 特定領域の組み合わせ

- (1) 包括基礎を共有する複数の特定領域を設定した場合は、全体として建築学および建築学関連分野における一つのプログラムとして認める。特定領域の組み合わせは、2.2 の考え方に適合する限り、いかなる組み合わせも認める。
- (2) 包括基礎が異なる特定領域の組み合わせは、全体として一つのプログラムとは認めない。

4. 大学院教育との関係

- (1) 大学院教育と一体となった教育目標を含む特定領域を設定する場合は、学部教育のプログラムの範囲を明確にするとともに、大学院教育との関係を明示すること。
- (2) 審査は学部教育の部分のみを対象とする。

5. 建築学および建築学関連分野の審査で独自に要求する資料

以下の資料は、自己点検書（引用・裏付資料編）「7. 分野別要件」に添付する。他の場所に添付されていれば引用でもよい。

- (1) 学年・学期別授業時間割表
- (2) 包括基礎の授業時間とその内訳（自己点検書表5の書式）
- (3) 設定した特定領域それぞれの学習・教育目標、想定する履修者数と実在数
- (4) それぞれの特定領域の履修者を定めるための具体的方法
- (5) それぞれの特定領域の学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（自己点検書表6の書式）
- (6) それぞれの特定領域の必修科目、担当教員